

まだ遅くない

葉月 一郎

え・小西保文（題字も）

緊急部会

神戸支局は、宿直組が二、三人いるだけで静まり返っていた。

部屋のすみのソファに、八木沢記者がひとり、長々と寝そべっている。合理主義者で、ドライなこの後輩記者にしては、珍しく紐のほどけたようなポーズだった。どこか投げやりな姿勢さえみえる。

近寄った戸波を認めると、八木沢はそれでもものっそりと起きあがった。

「あ、戸波さん、支局長はさきほど……」

「うむ、聞いた。泉田次長は——？」

「一足先に、本社へ出かけましたけど」

「デスクも、か」

やはりただごとではない。

巨大な、重苦しい足音を、頭上に聞く想いである。

阪神三宮駅までの短い道のりでも、支局長は一言も洩



（あらすじ）神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄（兵鉄）の公害をなくすため毎朝新聞神戸支局がキャンペーンを企画、取材をすすめていた。昭和四十五年秋のことだ。
怠惰な日常の中で仕事への情熱を失っていた戸波峻記者も石津支局長に誘われて参加する。たまたま乗客にからまれているところを助けてやった兵鉄秘書課の細川重紀子と親しくなり、重紀子は会社首脳の新開対策などを戸波に知らせて協力する。
兵鉄の和久井社長らとの会見も実現するが、社長は高姿勢の答弁を繰り返す。花房総務部長を中心に新聞社工作をすすめる、広告の掲載もとりにやめる。また重紀子を工場勤務に配置換えする。
かつて戸波の書いた記事のために職場を追われた堂本俊夫という男が交通事故に遭う。病室にかけつけた戸波を娘のしのぶは「あなたなせいだ」と激しく責める。その夜、支局長は本社から呼び出しを受けた。キャンペーンへの圧力だと戸波たちは直感する。

らさなかった。

「送ります」と、ついてきた部下を、むしろわずらわしげな表情で拒否した。振り返りもせずに地下への階段へと消えた。

無言であることの重みが、あらためて胸にのしかかっ

てくる。

「八木沢君、次長は何かいっていたかい」

「何かって、どういうことですか」

「こんな時間に、本社へ呼ばれた理由や」

八木沢は、のみかけのかんビールを、まずそうに乾した。乾しながら、戸波の眼の奥をのぞきこむ表情をみせた。

「決まってるじゃないですか。兵庫製鉄の記事ストップ令でしょうが」

「実際に、次長が、そういったのか」

「いや、しかし……」

「しかし、なんや」

「専用線でかかってきたんですがね、切るなり、呼び出しだよ」と薄ら笑いでした。それから、どういったと思いますか？」

「……………」

「出かける仕度をしながら、待ってましたと目に涙、って、まるで鼻歌か浪花節うなるみたいな調子で……」

「待ってました？」

「ぼく、ピンと来たんで、兵庫製鉄ですかって聞いたんです。そしたら、泉田さん、野暮なこと、聞くもんじゃねえって、何ていうんかな、ひどく突っ放したような声で……」

わかった、と戸波は思った。

宿直組のざわめきが高くなった。声を昂めて電話口にとどり返している。

(長田のゴム工場が火事や)

車を呼ぶ声、カメラマンの呼び出し……新聞社特有の浮わつた活気が、支局に広がりはじめている。

その活気を、まるで遠い国の出来事のようにながめた。

八木沢までが、同じようにぼんやりとした眼で追っただけだ。

(この男も、わかつているな)

八木沢だけではない。泉田次長だって「わかつていた」

に違いない。そうでなければ「待ってましたと目に涙」というような言葉が飛び出すはずがない……。

そう、少なくとも「七人の侍」といわれた取材スタッフの大半は、きょうのような事態が訪れるのを肌で予感していたのではないか。口にこそ出さなかったが、だれしもが一種のおびえを胸に抱きながら取材していたはずだ。

急に、戸波は支局長の表情を思い浮かべた。

さきほどの鍋ものの店で電話を聞いたあと、蒼白なまでに硬直した支局長の顔……。

(もしかしたら、あの男だけが、信じていたのかもしれない。圧力なんか、かからないということを……)

「まあ、とにかく、支局長からの連絡を待ちましょうや」
八木沢が押し出すような口調で呟く。

「万事は、そのあとですよ」

が、そのあと、どうしようというのだ。記事ストップ命令が出たら、それまでではないのか。

消防車だろうが、警笛を鳴らしながら、二台、三台と西へ走りすぎる音がここまで流れてくる。

三宮は、夜が更けるとともに賑わいも北へ移る。国鉄ガードの南側になるこのあたりは、九時すぎになると死んだような静寂に包まれることが多い。

「戸波さん」

八木沢が、すわり直したという感じで姿勢を正して、声をかけた。

「戸波さんは知ってますか」

「……………なにを……」

「支局長が、なぜ、兵庫製鉄のキャンペーンをやろうといい出したのか」

「うむ、それは、何度も聞かされたけど……」

「いや、そういう公式論、建前論じゃなくって、つまり、もっと裏側の事情というか……」

「裏側……？」

「ええ、実は、市役所の幹部が、きのう、僕をつかまえて……」



「何というか、江戸の仇を長崎で、みたいな感じなんです。満足できる補償額を払わないから、公害キャンペーンで、やっつけるぞという……」

初耳である。

あるいは、そうかもしれない。

兵庫製鉄と石津支局長個人との間に、すでに何らかのつながりがあるのではないか。そういう疑惑は、取材過程で感じたこともある。

「しかし、ねえ」

戸波は、八木沢の話に乗っていけない自分をもてあました。

「たとえ、仮りにキッカケがそうだったにしても、いまは切り離して考えるべきじゃないだろうか」

「そりゃ、そうかもしれないません」

八木沢は、眼鏡を光らせると、視線を宙に泳がせた。「僕のいいたいのは、われわれ兵隊は深入りしてはいけない、ということですよ」

「深入り？」

「そう、仮りに、本社からこのシリーズに対する圧力がなかった場合、支局長は抵抗したり、本社批判をするかもしれない。しかし、それは、あくまで支局長個人であって、われわれがそれに同調したり、先頭に立って騒ぐということはない方がいい、と思うんです」

てね、君ンとこの支局長は公私混同しとるって、いきなりいうんです。それで、よく聞いてみると……」

八木沢は、相変らず一言ずつ押し出すような口調で、つづけた。

市の幹部の話によると、支局長の実兄が名古屋にいる。その夫人の弟、つまり支局長の義弟に当る人物が兵庫製鉄につとめていたが、去年の暮、構内事故で首と右足に大けがをした。その後、会社側の補償が十分でなかったことから、もめつつづけているらしい……。

まるで他人ごとのような調子で、八木沢はゆつくりと話しつづけている。

戸波は、あらためて、その聡明そうな顔に目をやった。若手の中でも群を抜くホープだと、かねてからこの後輩を注目していた。こんどの公害取材でも、シャープな感覚で期待以上の成果を上げてくれる。その男が、はやくもこんな結論を胸の中でつくり出しているようとは……。取材チームの指揮者である支局長を、こんなに距離を置いてみつめているなんて……

新聞記者、とひとくちにいつても、実は無数のタイプがある。

義理人情の尾タイ骨をぶらさげた、情熱型の記者。

ひどくドライな、サラリーマン型もあれば、特ダネを追って労を惜しまぬ馬力派もいる。

八木沢は、ドライというより、もっとクールな、いい意味の合理主義者だろう。理知的で、冷徹で、仕事は常に平均以上のものかせいでいる——。

ふと、泉田次長を思い浮べた。八木沢は、あと十年もすれば、まさに泉田タイプになるのではないか。

「戸波さん、あなたなら、どうしますか？」

ひと呼吸おいて、戸波は答えた。

「おれなら、支局長に、そんな抵抗はおよしなさい、とブレーキをかけるな」

「もし、聞きいられてくれなかったら……」

「心中するよ、支局長と」

「一緒に抵抗する、ということですか」

「ああ、それしかないな」

答えながら、戸波は、おのれの心の中と全く正反対のことを口にしていて自分自身に気づいた。

宿直の海野記者が寄ってきた。

「支局長から、いま電話がありました」

「よし、おれが出る」

「いや、もう切れたんですけど」

「切れた？ で、何かあったか」

「はあ、あのう、きょうは帰れない。あした、臨時部会をするから、みんなに伝えておいてくわって」

「で、今夜の話の自身は……」

「それが、聞こうとしたら、アツという間に切れてしまつて……」

三宮駅の階段をおりていった支局長の背中が、急に思ひ出された。かたくなに沈黙を守ったまま一歩ずつ境界から消えていった背中——。

八木沢が、すつと立ち上がった。

「飲みに行きませんか」

つられて立ち上がる。じつと、後輩をみつめる。

「行こうか」

お通夜になるか、それとも前夜祭か。前夜祭としたら、なんの前夜ということなのか。

時計は、もう十一時を回っている。

あくる日——。

緊急の臨時部会は、午後二時という異例の白昼に開始された。

新聞社は、大半が外勤である。

夕刊の原稿は電話で送りこむ。朝刊用は、夕方までにまとめる。部会は、そのあと、つまり夜になるのが通常であった。

午後二時という時間は、議題がいかに重要であり、緊急性を帯びているかを示している。

その時間さえ待ち切れず、戸波は昼前から支局にいた。

二日酔いを感じさせないほど神経が張りつめているのがわかる。

泉田次長は、いつものように九時半には現れ、いつものように原稿をさばっていた。

交通事故、貨物船の座礁、新設高校の規模についての

発表記事……。

手なれた調子で、つきつきと本社へ送りこんでゆく。

合間にブラックコーヒーの出前をとり、にがそうにすす

る。すべてが、いつもと何一つ変わっていない。

石津支局長は正午をすぎても姿を見せなかった。いらだちが戸波を襲う。

原稿が一段落したところで、泉田に声をかけた。

「ゆうべ、どうやったんですか」

泉田は、チラッと、はれぼったい目を上げた。

視線がからんだまま、三秒、五秒と過ぎた。ことばはなかった。もともと、表情の乏しい男である。それが、いつそう無表情になっている…。

「部会、二時からだよ」

それが、最初のことばであった。

「……」

急に、なにか熱っぽいものが胸の底から突き上げてきた。それは、怒りに似ていた。

「デスク、……待ってましたと目に涙って何のことですか」

「なにか、いったかい」

「ゆうべ、出かけるとき、そういったでしようが」

泉田は、無表情に鎧を着せたまま、視線を泳がせた。残り少ないコーヒートを、ゆっくりとすすった。そして、突放すように繰り返した。

「部会、二時からだよ」

「わかってます」

反射的に、どなるようにことばを返す。

「支局長は、どうしてるんですか」

「さあ、もう来るだろう」

ひとりごとのようにいうと、泉田は新しい原稿に目を落とす。どんな質問も拒否するぞと、その肩が語っている…。

その横顔に、八木沢の横顔をダブらせる。

深入りすべきでない。抵抗に同調するようなことは避けるべきだ、と八木沢はいった。

同じことを、あるいは、この副指揮官も考えているのではないか。

戸波にしてみても、そういう気持がないわけではない。もともと、支局長に再三誘いかけられて応じた企画である。

だが、またはつきり方向が定まっていけない段階で、そういう考えを明解に表現した八木沢に、どこかついてゆけぬものを感じたのも事実である。

あのと、深夜のスナックで酒をくみかわしながらも戸波はそのことを強く意識した。だから、あえて「心中する」とくり返した。くり返すうちに、自分の気持がその方向へ傾いてゆくを感じた。

八木沢とは、まるでケンカ別れのような形で、スナックを飛び出したのである。

その支局長は、二時前、つまり部会がはじまる直前に、ようやく姿をみせた。

事態を伝え聞いた二十人近い支局長は、すでに勢ぞろいしていた。不安げに、あるいは無関心を装って、会議室の席についた。

ありありと疲労のいろを頬いっぱいに浮かべて、支局長はゆっくりと全員を見回す。

「いまから部会をする」

緊張の昂まりとともに、静寂が部屋を覆う。五十近いひとみが、この中年の指揮官に一齐にそそがれた。

一呼吸、間をおくと支局長はゆっくりと口をひらいた。

「きのう、急に本社から呼び出された。兵庫製鉄の公害キャンペーン・シリーズに対し、当分掲載を見合わせよう、という指示があった」

隣席の泉田は、目をつむったまま、塑像のように動かない。

「理由は二つ。一つの企業に対する攻撃は隠当でないこと。それに、内容自体も、激しすぎる、というわけだ」

深い、深い声である。

極力、抑揚をおさえ、感情を殺した声ともいえた。

(つづく)

神戸のうまいもん&ドリンキング

★日本料理

そば 吾作
神戸市生田区中山手通2丁目3-37
TEL 242-9858

露岐名代うどん あこや亭
神戸市東灘区藤塚通7-5 TEL 231-6300
上アールビル TEL 291-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 くれない
三宮生田新道西側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かつぱり 花くま
神戸市生田区在野町45
TEL 341-0240

鯛ものおもしろい 悟味酒
お茶漬・おはた
神戸市生田区北長狭通1丁目29 TEL 331-3848
このみちまちまウゴン TEL 391-5319

お茶漬(おもしろい) ふる里
神戸市生田区北長狭通2-1
TEL 331-5535

たこ焼たちばな
三宮センター街(旧御筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門前東門前ビル1階
TEL 331-7770

会席料理 婆娑羅(ばさら)
神戸市生田区北長狭通1丁目16
三宮西口北側インナーアネキ1・2F
TEL 331-8363

★西洋料理

レストラン アポロン
神戸市東灘区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 轟皮(あらかわ)
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3335

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通2丁目88-99
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手2丁目34
TEL 331-7168

レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1231

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷
三宮アネキロード市役所前
TEL 251-1109

鉄板グリル きゃんどる
神戸市生田区北長狭通2-23
TEL 331-1183

レストラン キングスアームス
神戸市東灘区磯辺通4-61
TEL 251-3774

焼酎屋 地代まるとん 井戸のある家
生田新道科書紀南
TEL 331-5664

レストラン ムーンライト
三宮・生田新道
TEL 331-9554

車カブ店 和蘭陀屋
三宮和花アネキビル1F
TEL 321-0239

カクテル・鉄板焼 月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社裏 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK 六段
生田区北長狭通3丁目1
TEL 331-2108

Beign House SOFIA(蘇珠亜)
神戸市生田区中山手通6丁目184
TEL 341-0658

レストラン ハイウェイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピザアパチス ピノッキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3542

レストラン フック東店
神戸市生田区東町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店
三宮区琴崎町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス グリル青山
神戸市生田区中山手通2丁目1-2
1F TEL 331-4858

ピザ・パブ ビサ・パテオ
神戸市生田区元町通1丁目42(北野1番地)
TEL 331-9376

ファミリーレストラン ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

RESTAURANT & BAR ゴックスタッド
生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131

メテロ小料理店 ティファナーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4-12(パールコートビル1F)
TEL 242-0043

ドイツ風音楽レストラン コーベ・ローレイ
生田区北長狭通5丁目39
TEL 371-0086

★喫茶

コーヒーにしむら珈琲店
中山手通・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9534
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 331-0659

和・洋・焼・店・山手通2丁目9 TEL 242-2447
(会館側) 3F 東西向 TEL 242-1880

喫茶・レストラン パロ
神戸三宮サンフウク地下 TEL 331-1758
トアコート店 TEL 291-1210

喫茶 ガーディニア
神戸市生田区東町143-1 大塚ビル1F
TEL 321-0114

喫茶 モーツアルト
神戸市生田区山本通2丁目98(ランドマンション1F)
TEL 241-3961

デザート・カフェ サボテン
神戸市生田区中山手通2丁目
(神戸女子大裏) TEL 241-7960

★club

クラブ 千
神戸市生田区下山手通2丁目21
TEL 331-1077

クラブ 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

club 小方
神戸市生田区東門前中島ビル3F
TEL 331-0638・4386

クラブ さ
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7129

クラブ なぎさ
神戸市生田区北長狭通3丁目 TEL 331-8626

クラブ 藤(ふき)
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

クラブ ぶーげん
三宮生田新道西側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

クラブ Moon Light
15Aビル TEL 241-0889・231-2056
15Bビル TEL 241-0157

クラブ るらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK
ドリンク&デザート
レストラン
神戸市生田区中山手通2丁目101(北野1番地)
TEL 331-5677

スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6(和光ビル1階)
TEL 331-1100・331-0480

洋酒ハウス 雑貨屋
三宮区中山手通2丁目8の4
(生田新道和光ビル隣) TEL 321-0280

スタンド グラムール
生田新道和光ビル裏 TEL 331-4627

SNACK MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目132-8
西側ビル1F TEL 241-5470

会席料理 サヴォイ
高菜田町・三宮の北
TEL 331-2635

スタンド 晴海(Sei-kai)
生田区北長狭通2-141
TEL 321-2230

DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス
神戸市生田区中山手通1丁目32
PHONE 978-241-7520

スタンド ビジービー
神戸市生田区中山手通2丁目
TEL 331-4562

クラブ 神戸時代
三宮区中山手通3丁目18
セントラルビル TEL 242-3057

クラブ くさる実
生田区中山手通1丁目7
TEL 331-6985

洋酒の味 キャンテイ
神戸市生田区北長狭通2丁目1
TEL 391-3960・391-3010

スナック&ドリンク キャンティ北店
神戸市生田区下山手通3丁目9-9 TEL 331-3561

DRINK SNACK スネカジリッ子
神戸市生田区中山手通2丁目
水菜ビル1F TEL 331-8708

Sand&Snack サントノーレ
三宮区和光ビル1F
生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 291-3822

Salon de roulette サントノーレ
パティスリー
6-レッド教室
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
アイコビル1F TEL 241-1710・221-3880

喫茶 国でっさん
神戸市生田区北長狭通1丁目29
TEL 331-6776

STAND マッシュケナダ
生田区中山手通2丁目11(和光ビル1階)
TEL 331-5567

スナック GASTRO
神戸市生田区中山手通3-20
1F TEL 331-0723

スナック クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
新門前中島ビル2F TEL 331-3379

デザート・カフェ バスチャーリントン
生田区北長狭通2丁目1(三宮ビル)
TEL 332-1125

デザート 比奈古多
三宮区和光ビル1F
神戸市生田区北野町1丁目143
Tel 241-1295

サロン アルバトロス
生田区中山手通3丁目24の7
大和ナイトクラブ2F TEL 331-3300

スナック エルソタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6920

クラブ 山荘
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 331-5523

デザート 紋
神戸市生田区北長狭通1丁目141-1(三宮ビル)
TEL 331-8586



baLon antique series

XXVI 硝子ランプ

松本 翼

〈「高」主人〉

「ガラスのものは、いつか割れてしまうってところが好きですね」

絵を描いていた頃、モチーフにするため買い求めたのが集め始める動機になった。ガラス職人がぶっと空気を入れてふくらませたままみたいな、ちょっといびつなガラス球のカサ、金魚バチを逆にしたようなひらひらのカサをかぶった西洋ランプ。

「クリスマスにはいっせいに灯をとめますが、どれも明りのニュアンスが少しずつ違うんです」とても手ばなす気にはなれないという松本さんだ。

トアロード パロンにて
カメラ/米田定藏



パロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄

参月 弥生

祝神戸っ子14周年記念

★婦人服地
オノ洋装店
 元町一番街 電話321-0075
 ウィンドーにはピンク
 やブルーのプリント生地
 がそろって、一足先に春
 も盛り。年々歳々、女性
 が美しくなっていくよう
 な気がしますが……。



★真珠・宝石

シユールズ商会

オリエンタルホテル地階
 電話331-2402

永年の経験により優秀な製品を取り揃えているスイス人経営のお店。真珠製品、宝石、銀製品など気品のあるアクセサリーがあるを魅了します。



★世界の服地

シンワ

センター街店 電話331-3098
 さんちか店 電話391-5254
 春一番。春の服がほしい。並木の芽吹きは始める三月の街に似合うきれいな色を着たい。おどかな自然の中に映える色がいい。貴女もいちだんと美しく。



★紳士シャツ

大和屋シャツ

神戸国際会館1F 電話251-0220
 三宮センター街(ネクタイ専門店)
 電話331-6956

ワイシャツに凝るのは男性のおしゃれの基礎。スリーブの下の質のよいシャツはその人のセンスを感じさせます。シャツ道楽(?)など、いかが？



★レ스토랑 デキシーランド

ほかほか暖かなお日さまがまた帰ってきた。ものみな心優しくちょっともの憂げ。春が来たヨ。

★レ스토랑 ニートーキョー

さんちかサロンタウン
☎391・5069
ビーフ100%のハンバー
グが自慢。大根おろしで
さっぱり和風の照焼、ト
マトの風味アメリカン、
洋茸のクリームソースは
オランダーなど各600円。



★レ스토랑 デキシーランド

真会区渡辺通4-81 ニューポート
ホテル北 ☎251-7277
マスターの中川宗和さ
んのピアノはあいかわら
ずの人気でジャズ好きの
人がいつもいっぱい。
リズムと音と笑いにみち
たレ스토랑。



★メキシコ小料理亭 ティファアーナ

中山手通1ノ4ノ12パールコーポラ
スビルF ☎242-0043
こちらはラテン音楽と
メキシコ料理。客も店の
人たちも入り混じっての
大活気。タコス500円、チ
リコンカルネ600円を食べ
てテキーラを飲もう。



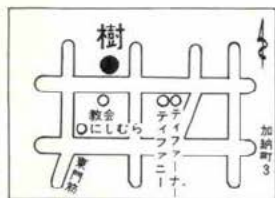
★レ스토랑&ラウンジ SOFIA (蘇菲亜)

中山手通6丁目84 ☎341-0658
下山手6丁目バス停北へ上る
快く食事やお茶をいただけそ
うな粋なラウンジ。ミニバーテ
イも予算に応じてやれます。
コーヒー、紅茶250円、エス
カルゴ800円。オールドキ
ー6,000円。





御好味焼



樹
たちき

〈メニュー〉

牛肉、豚肉、えび、いか、たこ
かき、もやしいため
とうふ焼き、コンニャク焼き

神戸市生田区山本通2丁目13-3
(レジデンス明信地階)
TEL(078)241-1629

6:00P.M.~2:00A.M.
日曜祭日休み

いきいきと神戸の酒徒の出会いの場



CLUB
小万

岩本起代子

生田区東門筋中島ビル3F

TEL 391-0638, 4386





SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57
☎ 242-0100



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32
WOODHOUSE 山内ビル
☎ 241-7320

KOBE DRINKING GUIDE

山崎
ステーキハウス

生田区中山手通1丁目
前川ビル1F
☎ 391-3335



トースタック
グレイジーホース

生田区花隈町12-1
花隈ダイヤハイイツ1F
☎ 341-7778



★三宮の雑踏を離れた中山手にある若者の店。それが“サテンドール”です。豊富な洋酒と気のきいた食事が楽しみ、そして何よりステキなジャズが店いっばいに流れているのがうれしい。また、4月中旬からはトリオが入り、ジャズの楽しめる店として面目を一新する。友だちや恋人との待ち合わせにも最適。パーティー、クラス会、結婚披露宴など25～50名ほどの会合も1人3,000円で食事つき、飲み放題でできる。春です。あなたも“サテンドール”でステキな夜をお過ごし下さい。

☆G & G ¥300 BEER ¥300 BOIS FIZZ ¥400 CUTTY SARK ¥500 SUNKISTフレッシュジュース ¥400 スパゲティ ¥300 ピラフ ¥300 ズッペ ¥400 サンドウィッチ ¥300～ サラダ ¥400～ エビコロッケ ¥500 チキンバスケット ¥500 ハンバーグ ¥500 ビーフシチュー ¥1,000 エスカルゴ ¥1,000 最上オノミスターキ ¥1,200
6：00P.M.～4：00A.M. 年中無休



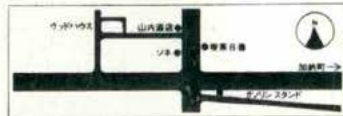
サテンドール

★あなたの心には、まだすきま風が冷めたく吹き抜けているのですか？ “ふたりぼっち”もいけれどハートとハートで感じ合うフィーリングを恋しく思いませんか。別れ別れになっても何かが残る。“ウッドハウス”でそんな友情が生まれるかも……。 “ウッドハウス”は今、君の心に芽ばえかけた小さな命に暖かさをおくります。

「3月」新しい出会いの時。“ウッドハウス”でのひとときをあなたにも。

☆営業時間が変わりました。平日/午前8時～午前4時30分、日曜/午後6時～午前12時、年中無休

コーヒー ¥150 紅茶 ¥150 ピラフ ¥250 サービスランチ ¥300 ビール(小) ¥300 水割り(OLD) ¥400 フィズ ¥500 おつまみ ¥100



ウッドハウス

KOBE
DRINKING
GUIDE



ヤマサキ

★本当の食通の人は、生半可な味では納得できず、満足行く味に出会うまで探し続けるものです。そんな人でも、ステーキハウス“山崎”の味には、成程とうなづかれています。味が一番大切ですが、落ち着いた雰囲気も“山崎”にはあります。取り揃えているワインを楽しみながらゆっくりと食事ができます。また、あらかじめ予約をしておくと奥のボックス席が利用できます。三十名様ほどのパーティーなどにも最適です。まっただけ、カキなど季節の料理もあります。家族づれ、友人同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ ¥5,000 サーロインステーキ ¥3,000 テンダーロインステーキ ¥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き、ビール ¥300 ボトル(OLD) ¥5,000 ボトル(ホワイトホース)、ボトル(カティサーク) 各 ¥7,000

5：00P.M.～2：00A.M. 日曜日休み

クレージーホース



★昨年の秋、花隈にオープンした“クレージーホース”。この店は宮内庁御用達業者で過日フォード米国大統領を迎えての晩さん会に使用された黒明殿の設計施工を担当した業者によって造られた。だから階段ひとつとっても他の店には見られない重厚な造りとなっている。ファッション都市神戸にマッチした店だ。また、この店のママは以前は三宮でステーキS.A.M.を経営、手塚なため7年間の経験を土台に新しい店づくりに意欲をみせている。2階では35名までのパーティーができるし、雰囲気がいいので商談やお見合いの場としてもよく利用されている。(パーティー予算1人1,500円から)昼はランチがある。クルマのときは近くの花隈駐車場が利用できる。

☆オールド・ボトル ¥6,000 ヘイグ・ボトル ¥7,000 ビール ¥300 オールド水割 ¥500 コーヒー ¥250 ランチA ¥700 ランチB ¥500
10：00A.M.～6：00P.M.(喫茶) 6：00P.M.～0：00A.M.(スナック)